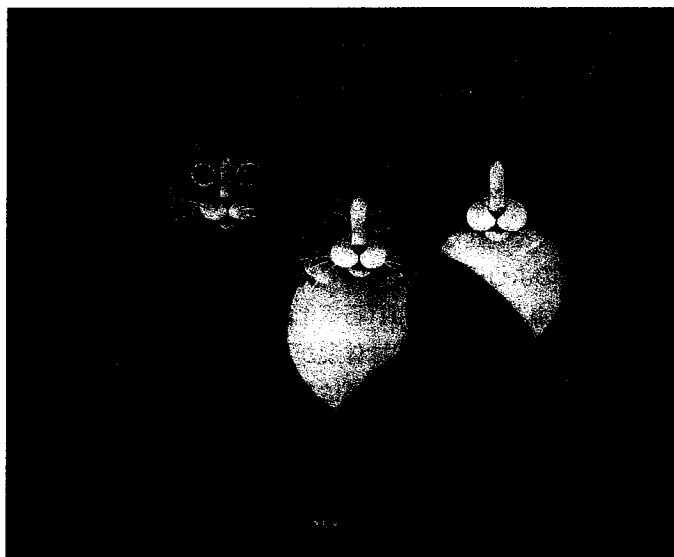




3月31日曜日、大阪中央区にある「たかつガーデン」にて【21世紀の幸せのかたち～今あらためて「人権」と法律家の役割を考える】という人権研究交流集会が開催され、8つの様々なテーマの分科会が開かれました。弁護士の内海先生が進行役を務められた「ペットの幸せ・人の幸せ」にオリバーさんとペット法学会の吉田真澄先生が講師として、国内外の現在におけるペット事情、そして虐待や救助、動物の権利等いろいろな角度から法律の話を織り交ぜてのお話となりました。

欧米（特にイギリスやドイツ）で犬や猫を飼うには、「買う」のではなくシェルターから引き取るのが一般的であり、何よりショップで生体を販売するのは非難される元になるので、店頭には置かず純血種の仔を買い求めるお客に対しては種毎のブリーダーを紹介するだけにとどまっています。やはり、日本とは一般の「意識」の差を感じずにはいられません。現在の日本における異常なほどのファッション化したペットブームも、まずは一般の意識・知識を改革し、不買運動を促進していかなければ欧米に一歩たりとも近づくことはできないのではないのでしょうか。売れるから生ませる、生まれるから売る、を繰り返している今の日本。この循環しているシステムを断ち切り、欧米のような意識に少しでも近づくには、一人一人が意識を持って自分の身の回りにいる人々に伝えていくだけでも将来における結果は必ずよくなると思います。

そして、現在の日本のペットブームの根底を支える業者（繁殖所や動物商、ショップ）についても、不衛生で悪徳であっても、今

の動物愛護法では基準が曖昧なので摘発することは大変困難になっています。行政が立ち入り調査を実施しても、改善を求めるに止まり、その後調査を持続し完全に改善されるまでに至るケースは少ないようです。吉田先生のお話にもあった「虐待についての定義」一つをとっても、日本の動愛法は細かく定義が定められているわけではなく、曖昧で立件するには困難なものとなっています。虐待を目撃した側の「酷い」という感情にも差があり、どの部分で「虐待」と認めるのか、という明確なガイドラインがありません。確実に罪を問うていくには状況証拠だけでなく、確実な「動かぬ証拠」を提出し、慎重に事を進めていかないと欧米のようにインスペクター（指導員）の制度がないだけに、情に押し流されて安易な行動をとれば、かえって動物の命を危険にさらすことになるかもしれません。

そのために、今日本にも必要なのは「愛護推進員」の制度だと吉田先生は考えています。各市町村に行政が認定した愛護推進員を配置し、動物の相談窓口としての役目を果たすことにより、地域に根づく愛護活動がなされるのではないかとことです。ただ、行政が認定したと言っても愛護推進員には「公的権限」は与えられていないと伺っています。近畿では兵庫が先駆けてこの制度を取り入れましたが、どのような活躍をするのか、期待したいものです。

ここには書ききれない程のお話が沢山ありましたが、今の動物愛護法によって殺処分数や動物虐待は減るのか？という疑問に対しては先にも述べました野放し状態のシステムの根本である動物取扱業を届け出制ではなく許可制にして規制し、守られていない業者に関しては許可を取り下げる等、徹底した罰則が必要なのだと思います。そしてなにより、飼い主である私たちの意識も安易に飼わない（買わない）・増やさない・捨てないを徹底させるべく鑑札制度（マイクロチップ等）の強化や不妊手術への認識が必要なのだと感じざるを得ません。飼い主の意識を徹底させることで近年問題になりつつある、「多頭飼い崩壊」も防げるのではないのでしょうか。命が次から次へと溢れ出し「消費」されていく日本。この状況を実際に変えていくのはやはり、一人一人の「意識」なのだと思います。

最後に、オリバー代表の奈良県天理市の多頭飼い崩壊における話の内容で適切でない発言がありましたこと、参加者の皆様には誠に申し訳なくお詫び申し上げます。

この会の始まりはALIVE作成のビデオの上映でした。そこには、保健所で殺処分されていく動物達の悲惨な姿が映し出されていました。あまりにも生々しいその映像は、思わず目を背けたくなるものでしたが、現実から目を背けてははならないと、必死の思いで最後まで見続けました。ショックで涙が溢れてきました。それは私が今まで知るのが怖くて直視できなかった現実でした。まさか動物達の最後があんなに苦しいものだなんて、信じたくありませんでした。「安楽死」という言葉を信じていた自分は愚かだったのだと知りました。

その他にも、この会は全体を通じて動物達の置かれている状況の悲惨さを訴えていました。そして、それを見て見ぬふりをしている行政の不備には腹立たしさを覚えると同時に、行政などを頼らずに、自分達の力で動物達を救う方法を見い出す必要があると強

く思いました。

パネラーの方も仰っていましたが、そのためには「ネットワーク」を広げる事が必要だと思います。現在、ペットブームの高まりもあってか、動物愛護の精神を持つ人も増えているそうです。しかし、それはまだ個人的なレベルであるために、大きな原動力にはなっていないのです。一人一人の小さな力も、集まれば大きな力になるはずで。そのためには、インターネットやメディアを通じて、多くの人々が共感を持ち、協力し合えるように訴えかける必要があると思います。そうした国民のエネルギーが、いずれは政府をも動かす事につながるのではないのでしょうか？少なくとも、全ての人間は、動物達を悲惨な目に遭わせている人間の姿を、同じ人間として知るべきだと思います。人間が良心を持つ生き物ならば、きっとそこから何かが変わってゆくはずで。